



# ワタミグループでのリユースびん の取組について

- 1、背景
- 2、目的
- 3、企画概要
- 4、環境負荷低減効果
- 5、拡大見込み
- 6、質疑応答

2013.11.28

ワタミエコロジー(株)  
循環サービス事業部



環境省エコファースト企業  
ワタミグループは、2010年3月1日、環境への貢献と社会的責任の両方を果たされることを、これからは世界のトップランナーとして達成することを目標とし、環境に配慮する環境先進企業として「エコファースト企業」の認定を受けました。

# 美しい地球を美しいままに、子どもたちに残していく

地球資源を有効活用しながら環境負荷の削減を目指します。

“人類が気付いてから50年、未だに地球環境は悪化し続けています”<sup>1)</sup>2007年 IPCC(気候変動に関する国際政府間パネル)の報告書によると、温まり続ける地球号に今、私たちは乗船しています。地球は未来の子どもたちからの預かりもの。50年後の地球を赤くするのも、青くするのも私たち次第です。ワタミグループでは、美しく青い地球を美しいまま子どもたちに残すため、3つのRに基づいて活動しています。



① 電力発電



② 木材の再利用



③ 堆肥の活用



まず環境負荷削減が重要と考えています。  
①電力削減：高効率LED照明や省エネ空調システム等、省エネ可能なLED照明を導入することで自然環境の負荷を軽減しています。  
②節水：節水設備や節水器具の導入により、節水器具の使用を徹底しています。  
③エコカーサイト：従業員の通勤には公共交通機関を優先させる取り組みを行い、化石燃料の使用を削減しています。



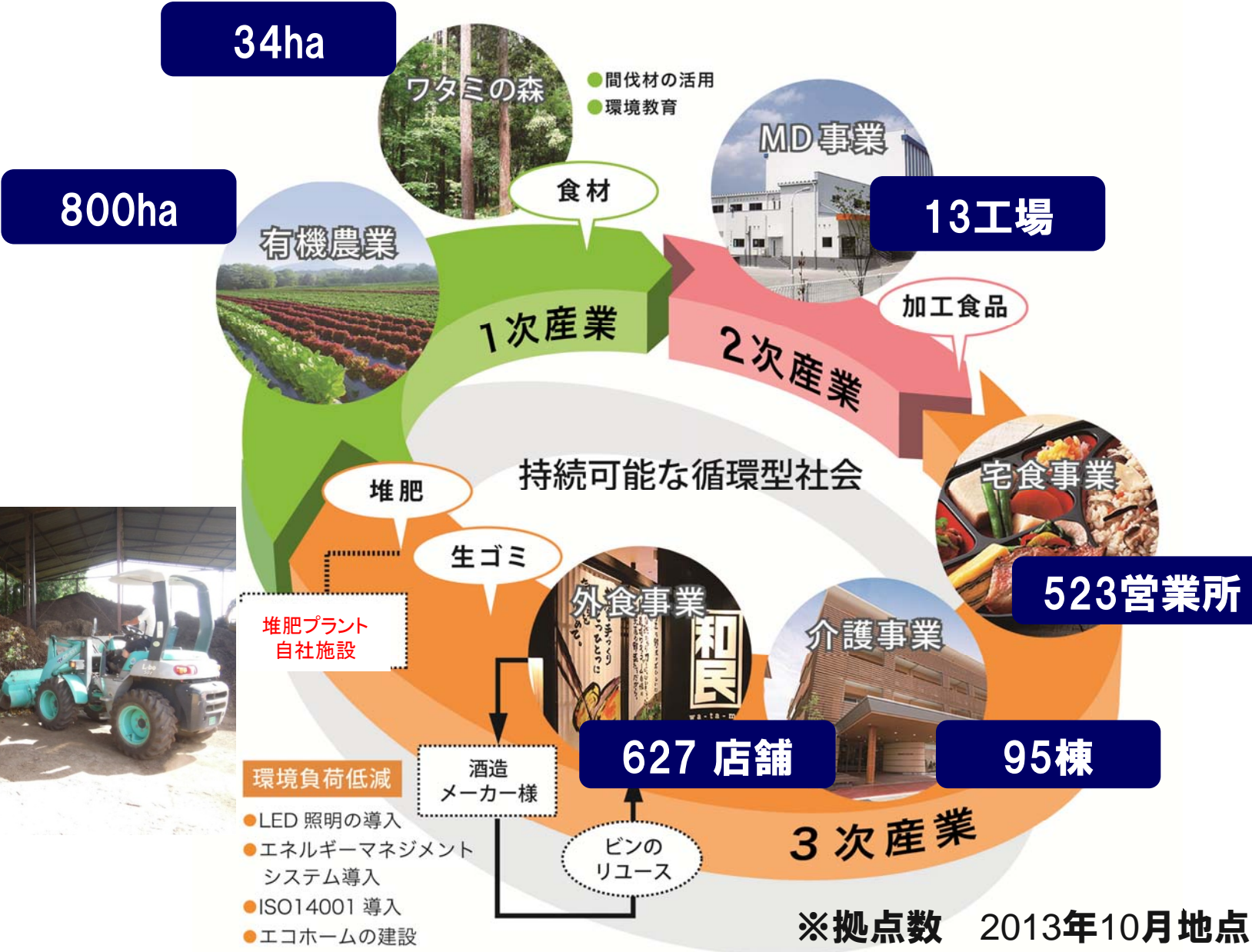
2番目に地球資源の再利用が重要と考えています。  
④木材の再利用：森林保全に伴い発生する間伐材を内装材料等として活用しています。  
⑤リユース：印刷物、ワタミタクシタのお弁当等は、使い捨てではなくして再利用しています。  
⑥リユース：日本産の紙や印刷物、再生紙の活用です。



どうしても発生してしまふ廃棄物を再生利用に役立てます。  
⑦土づくりセンター：外食店舗や食品製造で発生する土は、お弁当や食品のリサイクルと一緒に回収して活用しています。  
⑧食品廃棄物の活用：食品廃棄物を飼料として活用しています。  
⑨水のリユース：洗剤や洗剤水は、お風呂の水で再利用しています。



# ワタミグループの概要



# 1. 背景

## ◆ 外食チェーン店舗の廃棄物処理の限界

### ・ 当時のワタミ外食店舗

廃棄物全体のびんの占める割合 = 15~20%

・ 2007年度 外食のびんの使用量...3,108t/年

- |   |                               |
|---|-------------------------------|
| { | リユースびん...570t/年               |
|   | ワンウェイびん...2,538t/年 (内、埋立が76t) |



びんを廃棄物として排出せずにリユースすることで  
環境負荷の低減を目指す。

## 2.目的

他外食チェーンへのリユースシステムの拡大。

そのために必要なプロセス

①外食チェーン店が取り扱うガラスびんのリユースシステム(充填・流通・販売・回収・洗浄・再使用)を確立。



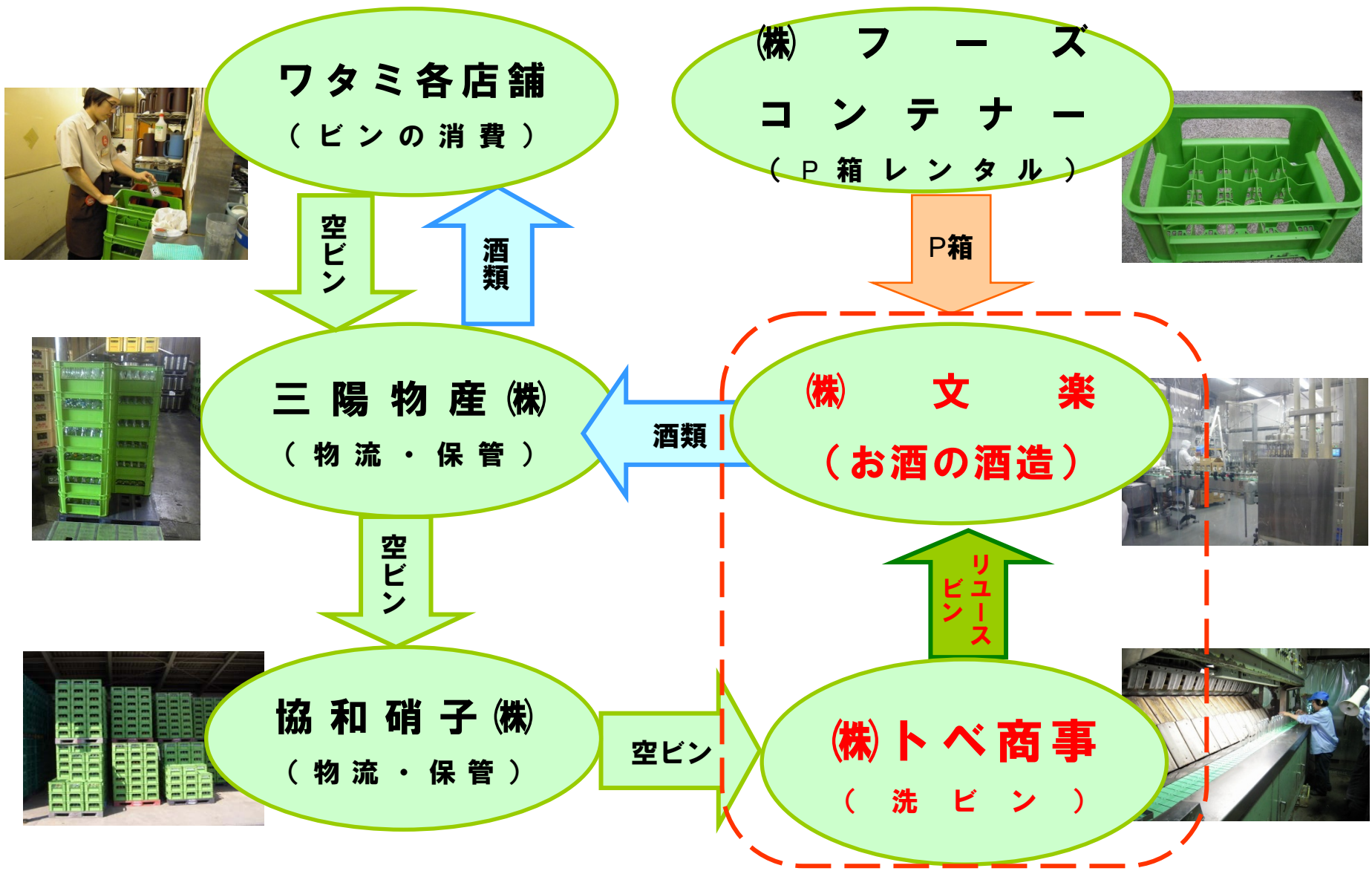
②環境負荷低減効果を定量的に把握する。



③リユースシステムを共有・明確化にすることにリユース標準を作り、社会全体に広げる。



# 3. 企画概要 a) 実施体制



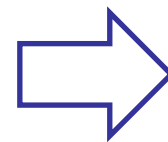
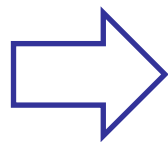
### 3.企画概要 b)リユースびんの対象商品



プライベートブランド商品  
 「わたみんな家日本酒」  
 「わたみ日本酒」  
 本醸造生貯蔵酒「夢」

#### (選定理由)

- ①店舗からの発注単位がケース単位(販売数量が多いこと)
- ②PB商品(限られた範囲内の流通のため、循環フローの変更が可能)

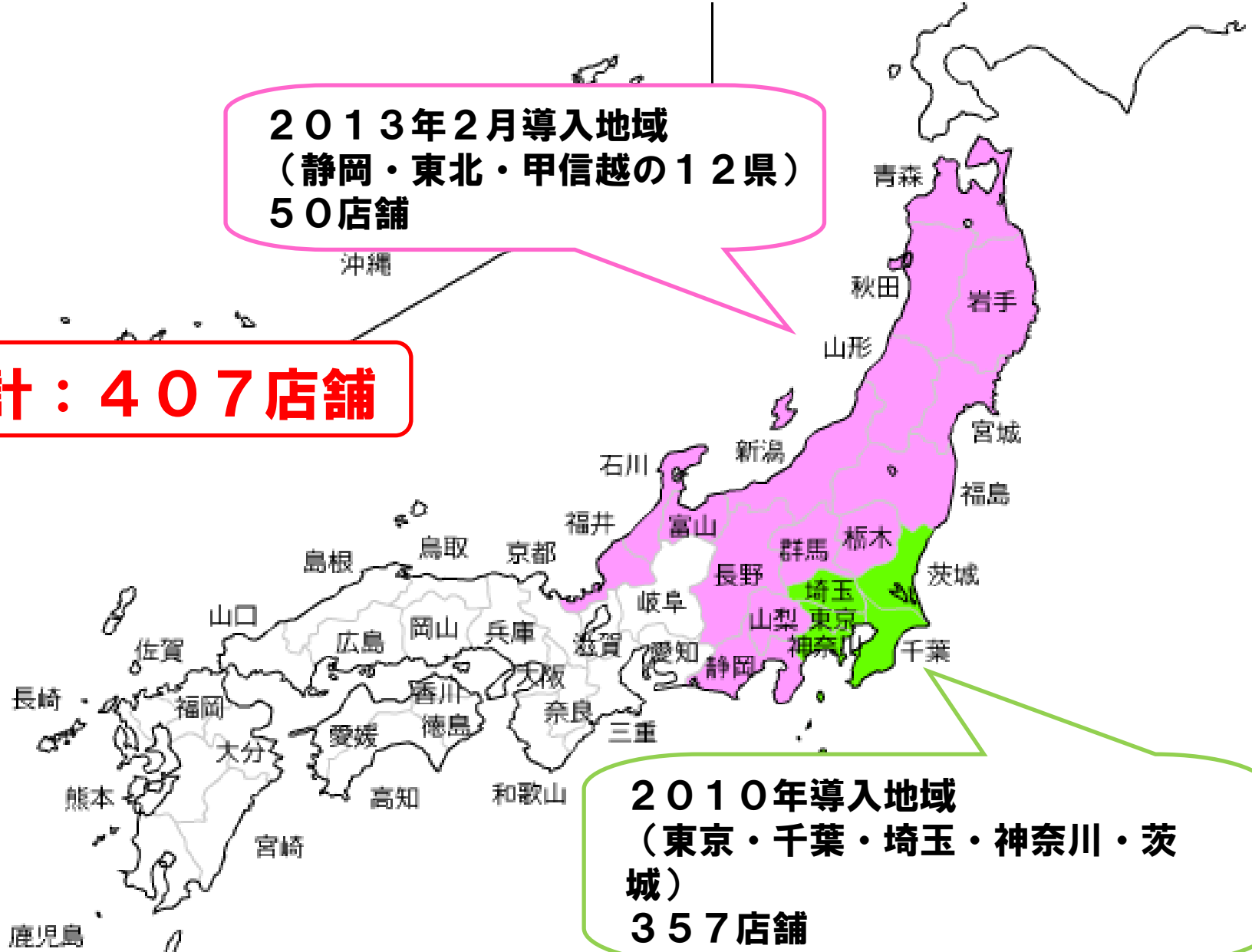




# 3. 企画概要 c) リユースびん対象地域

2013年2月導入地域  
(静岡・東北・甲信越の12県)  
50店舗

合計：407店舗

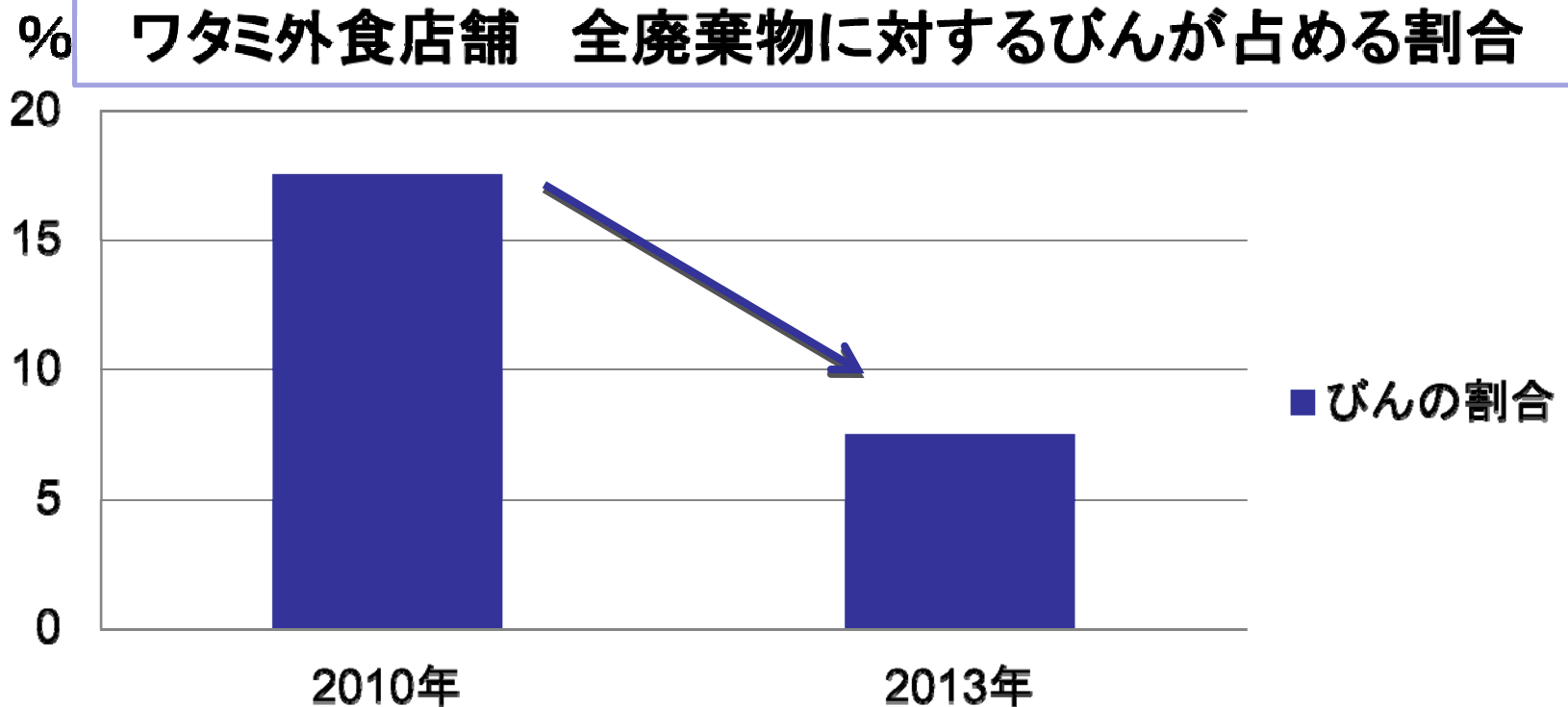


2010年導入地域  
(東京・千葉・埼玉・神奈川・茨城)  
357店舗





## 4.環境負荷低減効果 a)廃棄物量

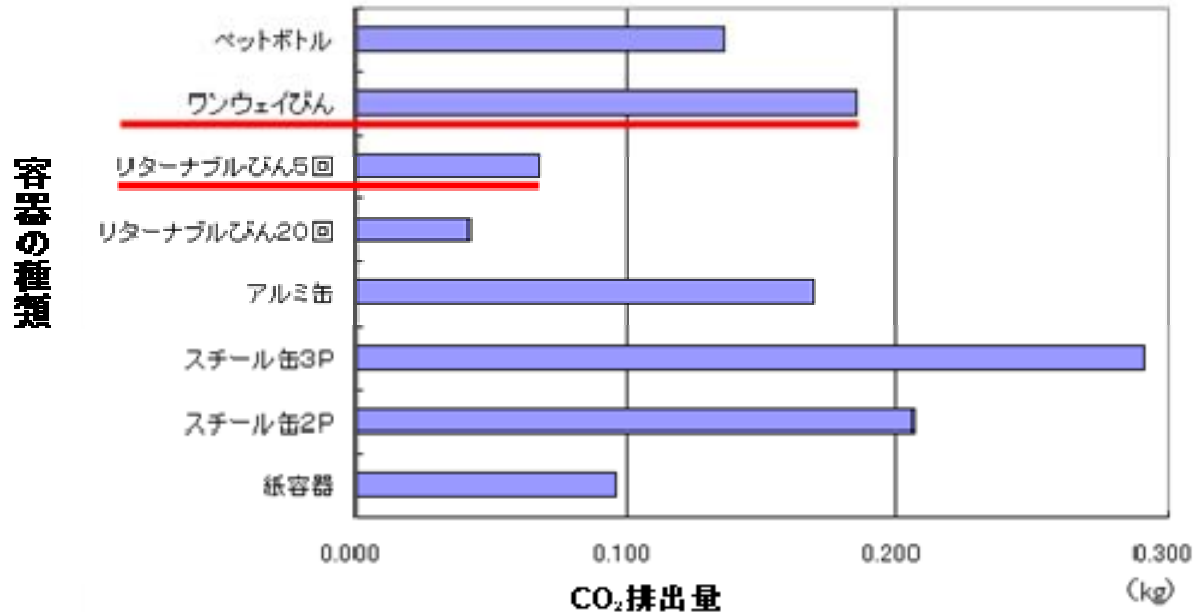


2010年 17.5% ⇒ 2013年 7.5%

⇒取組により約10%のびんの排出を抑制



## 4.環境負荷低減効果 b) CO2排出量



LCA手法による容器間比較報告書  
〈改訂版2001年度〉

びん1本当たりのCO<sub>2</sub>排出量

- ワンウェイびん...0.17kg
- リユースびん...0.0637kg

◆CO<sub>2</sub>排出削減量 52,575kg/年間



## 5. 拡大見込み 課題

プライベートブランド(PB)商品以外(720ml)の  
びんでのリユースびん導入が困難

◆ 当事業のPB商品選定理由

ア) 売上安定

イ) 継続性

ウ) ケース単位での店舗へ納入

現状: 720mlびんは1本単位での発注・納入方法

新たにP箱の導入が必要

⇒ 商品ごとのP箱の設置は店舗の負担増。

## 5. 拡大見込み 対策(ワタミ)

リユースびん商品の開発や拡大を推進

外食店舗においてお酒は必要不可欠。  
びんの使用をなくすことはできない。



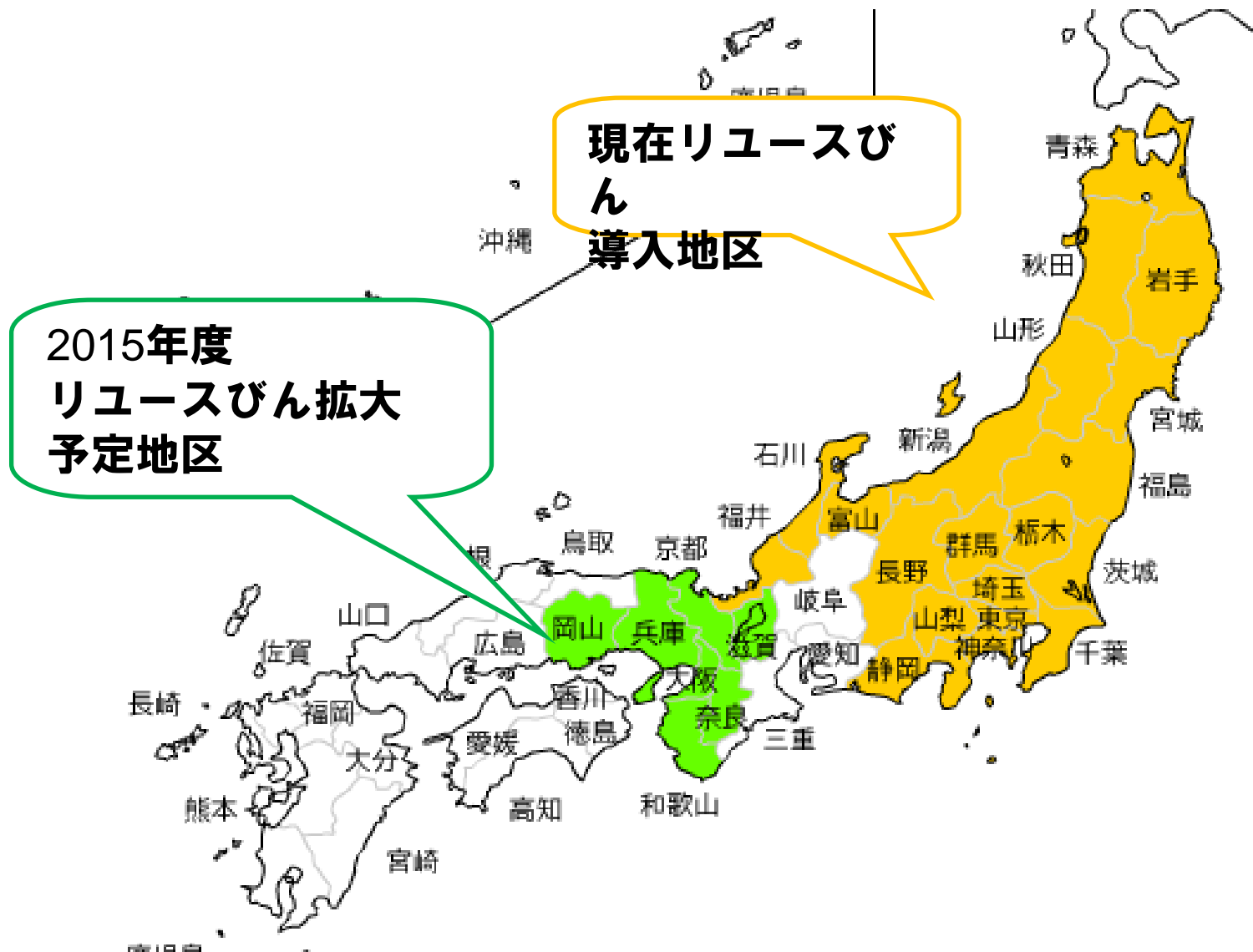
① 処分費(ごみとして廃棄)



② リユースびん運営・拡大費  
(システムを推進し、循環型社会への貢献)



# 5. 拡大見込み 予定地区





## 5. 拡大見込み 提案(リユースびん業界)

リユースびん購買意欲を促進する働き

リユースびんの拡大に必要なのは...  
使うことのメリットを出すこと。

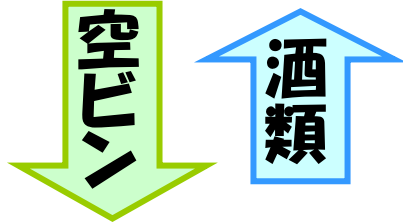
例) デポジット制度の活用

消費者にとってわかりやすいメリット

# 補足資料:リユースびん以外のびんの取組



ワタミ各店舗  
(ビンの消費)



ガラス製品へ



三陽物産(株)様  
(物流・保管)

色別に分けて  
カレット化



(京都硝子壺問屋(協)  
(ビン運搬・ビン選別)

(株)吉川商店様  
(カレット売却・  
リユース洗浄)

コンテナ自動洗浄機



ご清聴  
ありがとうございました